

山田地区 地域説明会 会議録（概要）

- 日 時 令和8年8月5日（水）15：00～16：15
- 場 所 山田公民館 2階 大会議室
- 参加者 地域住民 7名
- 傍聴者 （オブザーバー）市議会議員 2名、報道関係者 1名

1 再編準備委員会の設置等について

事務局 資料に基づき説明

2 質疑・応答

住民 A： 少人数の学びも生かすということで、「非常勤講師や支援員を配置し、複数人による手厚いサポート」「安心して過ごせる居場所づくり、心のケア」と説明されていますが、具体的にどういう形で非常勤講師を配置して学習支援をしようと考えていますか。

タブレットで学習できることも多いものの、やはり人と人との触れ合いの中で学べることの方が大きいと感じます。人と人とのつながりの中での個別の学習をどう保障していくのかを具体的に伺いたいと思います。

また、環境が変わることに伴う子どもたちの心のケアについて、担任の先生を中心にどのように取り組んでいかれるのかを具体的に伺いたいと思います。

事務局： 現在は、子どもたちが自ら学ぶ内容や方法を選択し、自分の進度や理解度に応じて学びを進めていく時代が変わってきております。教員の児童生徒の把握の仕方も従来と変わってきており、これまでは一斉に説明してその後個々の状態を把握しながら声かけをしていた状況から、タブレットを使いながら個々の進捗状況を一覧で教員が見て把握する方法が変わってきております。

支援のタイミングも従来と変わってきており、一律にスタート段階で手を差し伸べるのではなく、友達と意見を交わせる子については交流の中で気づくこともありますし、対人関係が苦手な子については教師や支援員がサポートに入り、どのように学習を進めようとしているのかを聞きながら、相談役として支援することが考えられます。

また、環境が変わることへの適応については、事前に交流授業や行事を行うなど、新しい学校が始まる前に交流の機会を設けていきたいと考えています。再編後は担任の先生を中心としつつ、全教職員があらゆる場面で気づいたことを教員間で共有していく仕組みもタブレットを用いた情報共有などを通じて行い、フォローしていきます。子どもの状態に応じて、話しやすい先生を選べるようなことも考えながら対応していきたいと考えています。

住民 A： 最近のコミュニティスクールの考え方からすれば、少人数になったところに大人も入って子どもたちと一緒に学んでいくことができます。多様な考え方を持つ仲間と意見交換して育っていく中で子どもたちは伸びていくというのは教育委員会の考えとしてよくわかります。アンケートにも書きましたが、1年生か

ら3年生まではやはり手厚く大人も関わりながら教育していくべきで、例えば分校の形になってもいいから残し、そこをコミュニティスクールにして地域の大人たちも関わっていくこととすれば、地域の学校として残りますし、子どもたちにとってもきめ細やかな指導をしながら大人と関わっていけると思います。分校にしたかどうかというのが私の意見ですが、お考えをお聞きしたいと思います。

事務局： コミュニティスクールについては、確かに各校で取り組みを進めており、校長が学校経営方針を説明した上で地域の力も借りながら進めているところです。分校を作って進めていくご意見も理解できますが、現状では1年生から6年生まで一つの学校で縦割りの関係を作ったり、先輩の姿を見たり、上級生との交流の場を作れたりすることにも意義があると考えております。そのため、現状では一つの学校として進めていきたいと考えています。

住民 B： 前回、小学校がなくなることは、その地域に住む理由が一つ少なくなることでないかと質問したところ、「自転車の街で、後閑を通して地域に来る観光的な価値がある」との説明がありました。しかし、それでは山田地区が通り過ぎる場所になってしまうのではないのでしょうか。

空き家を活用して自転車利用者の目的地をつくるなど、具体的な計画が進んでいるのであれば理解できますが、現時点ではそのような状況ではないと認識しています。宿泊施設やカフェなどの観光拠点を民間の力も活用しながら検討するという話も、地域に住む理由になるまでには時間がかかると思います。学校がなくなることによって地域に住む理由が減ることに対し、市としてどのようなまちづくりを考えているのか、改めて伺いたいです。

また、前回、再編後に山田小学校ではなく胸上小学校を使用する理由として、山田小学校では特別支援学級などの教室が2室不足するという説明がありましたが、山田小学校でも対応できるのではないのでしょうか。

事務局： 前回、自転車の街などについて説明したのは市全体の話であり、現在、山田地区に個別の計画があるわけではありません。

学校がなくなり、通学距離が長くなることへの対応としては、バス費用の補助などを行うことにより、山田地区に住んでいても子どもたちが安全に学校へ通える環境を整えます。また、学校がなくなることによって、人が集まる場所や地域の交流が減るのではないかと心配に対しては、地域の方々と話し合いながら学校跡地の活用方法を検討し、地域が集まる機会や場所がなくならないようにしたいと考えています。

学校が遠くなった場合でも、これまでと同じように地域活動が続けることができ、子どもたちも安心して通学できる環境を整えることで、地域に住む理由がなくならないよう進めていきたいと考えています。

また、再編後に必要となる教室数は、通常学級6室、特別支援学級3室、通級指導教室2室の合計11室です。現在の山田小学校は、通常学級6室、特別支援学級1室、通級指導教室0室、転用可能な教室2室で、合計9室となり、必要な

11 室に対して 2 室不足します。

一方、胸上小学校は、通常学級 6 室、特別支援学級 2 室、通級指導教室 2 室、転用可能な教室 4 室で、合計 14 室となります。必要な 11 室に対して 3 室の余裕があることから、教室数の面では胸上小学校で対応できる状況です。

住民 B： 胸上小学校については、耐震に関する調査のための予算を計上しているとの説明がありましたが、校舎を今後使用していく上で、どの程度の経費が必要になるのでしょうか。

また、先ほどの説明では、学校がなくなることで地域に住む理由が減ることに対する具体的な代替案になっていないように感じました。山田地区を含め、人口が減少する中で、地域を残していくために市としてどのような施策を考えているのでしょうか。

事務局： 耐震改修については、山田小学校、胸上小学校ともに完了しています。胸上小学校について前回説明した改修工事は、耐震改修ではなく、今後 40 年間を見据えた長寿命化工事のことです。

その前段階として、今年度、コンクリートの強度などを調査するための経費を当初予算に計上し、現在調査を行っています。その結果を踏まえ、校舎の改修が必要かどうかを判断し、必要な工事内容や経費を見積もることになります。そのため、現時点では詳細な経費を算出できていません。

人口減少対策については、人口減少は玉野市だけでなく全国的に進んでおり、市としても重要な課題と認識しています。市では、結婚・出産・子育てへの支援、企業誘致や就職マッチングによる地元就職の促進、玉野市の良さを市外に発信する移住・定住施策、現在住んでいる方が生活に困らないための公共交通や安全・安心に関する取組などを行っています。人口は減少していますが、今後も新しい取組を取り入れながら、人口減少対策に取り組めます。

学校がなくなり、通学が遠くなるというマイナス面を補う取組の一つとして、学校跡地の活用が考えられます。山田地区においても、地域懇談会や学校跡地活用の検討に際して改めて意見を伺い、高齢者だけでなく若い方も含め、地域で暮らしていく楽しみが一つでも増えるような活用方法を一緒に考えていきたいと思っています。

住民 C： 胸上小学校に再編しても、各学年 1 学級しかできないと聞いています。これまで「様々な子どもが切磋琢磨するために、ある程度の人数が必要」と説明されてきましたが、1 学級しかできないのであれば意味がないのではないのでしょうか。将来、他の学校と再編するのであれば、最初からそちらへ行く方がよいのではないのでしょうか。統合には基本的に反対です。

事務局： まず、計画年度がずれると、複式学級が生じる可能性があり、複式学級を生じさせないためには、計画年度に新しい学校をつくる必要があると考えています。また、東部地区にも学校が必要であるとの考えから、再編を進めています。

住民 A： 今まで「大人数で授業するのが子どものために良い」という説明をずっとされ

てきたと思いますが、再編後も1学級であれば、本当に子どものためになるのでしょうか。これまでの説明と食い違うように感じます。

事務局： 1学級ではありますが、35人という上限に近い人数になることが見込まれます。現在の10人未満の学級から30人程度の学級となることで、様々な考え方を持つ子ども同士の関わりが生まれ、多様な学びにつながると考えています。

住民A： 全国学力学習状況調査で玉野市はあまりいい成績ではなかったように思いますが、統合した時に岡山県の平均以上になるのでしょうか。学力は当然向上させるべきだと思いますが、学力面ではどのようにお考えでしょうか。

事務局： 学力については全国学力学習状況調査があり、それを見ると玉野市は低いという見方もできると思いますが、経年で見ると玉野市の結果は徐々に向上しています。これは再編の有無に関わらず、子供たちにしっかり学力をつけていかなければならないと考えておりますので、学力向上に向けた取り組みを続けてまいります。

住民D： 玉野市の小学校の統合はここが初めてになるのでしょうか。過去の事例があれば、どのくらいの期間をかけて再編を進めているのでしょうか。

事務局： 小学校の事例としては、過去に奥玉小学校を玉小学校へ統合した実績があります。また、統合ではありませんが、鉾立小学校を休校とし、胸上小学校へ通学していただいている事例は、実質的には統合に近い形と考えています。

奥玉小学校については、以前のことで手元に記録がなく、正確な準備期間は分かりませんが、比較的短い期間で行われたと記憶しています。鉾立小学校と胸上小学校については、約1年3か月で準備を行いました。

住民D： 他市の事例を調べると、準備期間は2、3年程度が多いです。1年半の事例もありますが、スケジュールを優先し、トラブルが生じた例も聞いたことがあります。横断歩道の設置など、道路管理者や警察との調整を含め、1年半で通学路の安全対策を完了できるのでしょうか。それとも、再編後も整備を続けることになるのでしょうか。

事務局： 通学路の安全・安心は最優先で考えています。これまで実施している中学校再編でも、同程度のスケジュールで準備を進めています。

危険な箇所については、今後設置する再編準備委員会で一つずつ検証し、道路の拡幅や待機場所の確保など、必要な対策を検討します。県道や国道については速やかに県へ要望し、重点要望として市長から知事に働きかけるなど、整備を進めます。市道については市が道路管理者となるため、必要な案件があれば現地を確認し、早急に整備するよう進めます。

実際、期間を要するケースとしては、道路の整備よりも校舎の整備などで2～3年かかっているケースがあると認識しています。

住民D： 再編準備委員会の方が課題を出して、解決していくということでしょうか。

事務局： 市で把握できるところはもちろん足を運んで確認していきますが、再編準備委員会に保護者の方や地域の方などに参加していただきますので、皆様の声を伺い

ながら、安全対策や必要な整備を進めていきます。

住民 D： 私が一番懸念しているのは、山田小から胸上小に行く時に、通学時間が約 10 倍ほど増えることです。胸上小の方に歩いて何回か行っていますが、危険な場所が多いと感じました。

特に、山田から胸上へ向かう途中にある工事の橋付近は、工事が完了すると交通量が増えると思います。信号機也没有ありません。信号機を設置することはできないでしょうか。

事務局： 工事中の箇所については、他の方からも同様のご意見をいただいております。信号機の設置には、諸々条件があると思いますが、基本的には警察の許可が必要です。そういったお声をいただいた段階で、警察へ信号機の設置ができないか、足を運んでいきたいと思っています。

住民 E： 「一人 1 台のタブレット」による個別の学習支援について説明がありましたが、非常勤講師や支援員を配置し、複数人による手厚い支援体制を整えるという取組は、これまでも行われているのではないのでしょうか。

再編によって児童数が増えた場合、担任とのきめ細かなつながりがどうなるのか不安があります。タブレットとは別に、人と人とのつながりが重要であり、担任に認められ、褒められ、助言を受けることが、子どもの心や意欲を育てる上で大切だと考えています。支援員などは、再編に合わせた新たな取組として配置するのででしょうか。

また、胸上小学校の長寿命化に向けた調査を行っているということですが、そうすると当初から山田小学校を残すことは考えていなかったのでしょうか。

事務局： 再編に当たり、できる配慮は最大限行いたいと考えています。例えば、教員配置についても、統合する学校の教員が新しい学校へ配置されるよう、可能な限り配慮します。

学習支援員などは、全ての学校に必ず配置されているものではありませんが、再編後の学校については、できる限り支援員やサポートスタッフを配置できるよう努めて参ります。

子どもたちを褒め、認めることについては、教員研修などでも伝えていきます。学校によっては「褒め言葉のシャワー」や「グッドビヘイビアカード」など、目に見える形でよかった点を伝える取組を行っています。子どもたちの自己肯定感を高め、さらに頑張りたいと思えるような取組を新しい学校にも取り入れたいと考えています。

また、長寿命化について、市内の小中学校は建築後相当な年数が経過し、ほぼ全ての学校で老朽化が進んでいます。このため、古い施設から段階的に長寿命化を行う必要があり、胸上小学校は建築後約 40 年が経過しているため、このタイミングに長寿命化に向けた調査を行うものです。再編が理由というより、施設の経過年数を踏まえて計画的に実施するものとなっています。

住民 A： 教員の働き方改革を進めることで、子どもと触れ合う時間が少なくなり、教員

も早く帰るようになったという声を聞きます。再編によって児童数が増えた場合、子どもが相談したいときに、担任へ相談できる時間を確保できるのでしょうか。働き方改革が必要なことは理解していますが、大切なのは学力だけでなく、人をどのように育てるかだと思います。再編した場合でも、担任が一人一人と向き合い、相談に乗る時間を確保できるのでしょうか。また、複数担任制を導入することは考えられないのでしょうか。

また、まちづくりの活性化という観点から、若い人たちが玉野市をどのようにしていきたいのか、現在の課題をどのように変えたいのかという意見を、市として聞き入れ、施策に反映していく姿勢はあるのでしょうか。

事務局： 子どもと教員が触れ合う時間は、必要な時間だと考えています。その時間を削ってまで、働き方改革を進めるよう、教員へ説明しているわけではありません。

ご理解いただきたいのは、教員が厳しい労働環境の中で、子どものために自分を犠牲にすることが美德とされてきた面もあります。教育委員会としては、教員自身が元気に働き、自らのウェルビーイングを大切にしながら子どもたちと向き合うことができ、教職をより魅力あるものとして示していきたいという思いがあります。

また、若い世代の意見を聞いてまちづくりを進めることは、市としても大切だと考えています。今年度、玉野市の総合計画を策定する中で、市内4校の高校生に参加してもらい、まちづくりについて考えるワークショップを実施しました。また、20代・30代を中心とした市内在住・在勤の方々に集まっていただき、玉野市の将来像や今後の進め方について意見を伺う会議も開催しています。

若い方に住んでもらい、玉野市に魅力を感じてもらえるまちづくりを進めるためには、10代、20代、30代の意見を聞くことが重要と考えていますので、今後も、若い世代の意見をしっかりと伺いながら取り組んでいきたいと考えています。

住民A： 教育委員会として、子ども一人一人に向き合う時間を削らず、しっかり話を聞いて相談に乗るよう伝えていくという理解でよいのでしょうか。また、現在の仕組みを継続するだけでなく、例えば、複数担任制などを導入する考えはないのでしょうか。

事務局： 児童一人一人を見ていく時間を確保することは前提ですが、教員が際限なく時間をかけ、時間外労働がどんどん増えることも望ましくないため、両者のバランスが必要だと考えています。

また、小学校では1学級に1人の担任を置くことが一般的ですが、学年や学校規模に応じて、複数の教員が国語や算数などを分担し、一人当たりの負担を軽減しながら複数の教員で子どもを見る方法も考えられます。複数担任制については、各校でどのようなことができるのかを検討している段階です。

教育長： 長時間にわたり様々な貴重なご意見をありがとうございました。

この山田地区においては、保護者対象の説明会を5回、地域の説明会を本日含め3回目させていただきました。地域の皆様が学校を思う気持ちは当然のことで

あり、山田小学校についても長い歴史と伝統のある学校でございます。地域から学校がなくなることへの思いも理解できます。

一方で、社会は大きく変化しており、今後も変化が続いていきます。子どもたちに身につけてもらいたい力は、学力だけでなく、社会の変化に対応する力や、様々な人と切磋琢磨しながら折り合いをつける力など、これからの時代を生き抜くために必要な力です。そのような力を身につけるためには、一定の集団規模が必要であるとこれまで説明してきました。

クラス替えができる規模が理想ではありますが、10人のクラスと30人や35人のクラスでは人との関わりや学習、学校行事などにおける可能性や選択肢が変わってきます。また、4つの小学校区が一つになる場合には、それぞれの地域が持つ歴史、伝統、誇りを新しい学校にしっかりと継承する必要があると考えています。

説明会では、特に反対のご意見が多いことも重く受け止めています。その一方で、山田地区にも再編を早く進めてほしいという賛同の意見があります。これまで複数回にわたって説明を行い、様々なご意見をいただき、教育委員会でも協議を重ねました。その上で、これらを総合的に判断し、山田小学校については胸上小学校へ再編し、令和10年4月を予定として、次の段階へ進めていきたいと思っています。様々な思いや不満があることは承知していますが、これからの子どもたちのために、一定の規模を持つ新しい学校づくりを進めたいと考えていますので、ご理解をいただきたいと思います。